

THE  
EIGHTEEN  
SACRED  
FUÞHORK  
RUNES

AN INTRODUCTION  
TO RUNE MAGIK

BY

KARL HANS WELZ

# ルーン魔術入門

**Copyright© 1990 by Karl Hans Welz**

**No part of this book may be reproduced by any means  
without prior permission from the author.**

**Published by Karl Hans Wely**

**<http://www.runemagick.com>**

**P.O. Box 1298, Woodstock, GA 30188, USA**

# INTRODUCTION

ここ数年の間にルーンに興味を抱く人々の数は、急速に増加しています。しかし、ルーン領域からの宇宙エネルギーを捉える古代の技としてのルーンに真剣に興味を抱く人々は、すぐに、英語圏では、ルーンについて、はっきりしたことはほとんど知られていないという現実  
に直面します。

この不幸にして残念な状況は、形而上の書籍を主に取り扱っている書店の棚にもよく反映されています。つい最近になるまで、真面目な学徒は、ルーンの秘教的な分野について有益な情報を見出すことができる本を手にすることはできなかつたのです。もちろん、ルーン  
の領域からの素晴らしい力を捉えるための実際的なアドバイスを  
得ることも叶わなかつたのです。

今日では、何冊かのルーンをテーマにした書物を目にすることができます。しかし、これらの本の著者の多くは、ルーン・リーディング  
(ルーン占術) について多くのページを割き、ルーン  
の他の使用法についてはごくわずかのヒントを示してくれるだけです。

また、そうでない著者の何人かは、古いオーディン崇拝の宗教を復活させることに熱中しています。

このような著作のなかで良く知られたもののどれひとつとして、六角形に三本の対角線をひいた形、すなわち、世界水晶に基づいた、18神聖ファソルク・ルーンを基礎としたものはありません。

これらの著作のなかでは、18ファソルク・ルーンとは、ほとんど関係のない、20文字や24文字、あるいは、それ以上の文字数の

「ルーン」について述べられているのです。

何人かの著者は、自分の体系のなかに新しく「ブランク・ルーン」なるものを考案し導入しています。もちろん、このようなルーンは、真のルーンの伝統では全く知られていないものです。これらのルーンは、「象徴」ではあっても、真の「象徴体系」としては認めることができません。

真の象徴体系では、個々の象徴の他の象徴に対する位置が非常に重要な意味をもちます。このような相互関係を見出すことができなければ、支離滅裂な象徴配置といわざるをえません。

18神聖ファソルク・ルーンは、個々のシンボルと特定の音声（マントラ）が密接な関係をもっています。ある現代の研究者は、ルーンは、元型的象徴体系であるだろうと述べています。

もし、適切にルーンが使用されれば、宇宙エネルギーにアクセスするためのトリガー（引き金）としてまちがいに作用します。

言語が産み出した個々の音（音声）をあらわすためにルーンが存在しているわけではありません。ルーンは、本来、アルファベットとしてではなく、神聖なる目的のためにのみ使用されていたのです。

ルーンを用いて名前を書いたり、短いメッセージを記したりするようになったのは、ずっと後のことです。デンマークやノルウェー、スウェーデンのバイキング達は、この聖なるシンボルを、共通の便利な書体として発達させるよりも、神聖な目的のためにのみ用いることを好みました。たとえ、彼らの言語にあるすべての音をこの神聖なるシンボルが含んでいなかったとしても。

バイキング達は、ルーンの象徴体系のもつ秘教的な性質に気づいていたので、音声的な必要性に妥協して、新しいシンボルをつくりだすようなことはしなかったのです。

しかし、その後、バイキング達が、その活動範囲をイギリス、アイスランド、グリーンランド、カナダ北部、ロシア、ノルマンディー、シシリーや他の多くの国々へと広げていったとき、古い象徴を秘するためにも新しい象徴を導入しはじめたのです。

征服、新しい占領地、そしてそこで、異なった言語との接触がおこり、その言語のなかの新しい音声をより正確にあらわすために、新しい象徴が導入されました。新しいシンボルを導入した結果、35文字をこえる文字数をもつルーンのアルフアベットが発達したのです。

新しい象徴が導入され、古い象徴のいくつかが歪められたり、欠落したりした、ものひとつの理由は、その当時の宗教的な状況にあります。

バイキングは、ルーンを宗教体系の一部として統合した唯一の人々でした。バイキングは、その勢力を拡大発展していくなかで、彼らの社会経済機構も大きく変貌していきました。その時代に、彼らは、比較的歴史の浅い、やや狂信的なところがあるキリスト教と接触したのです。キリスト教は、自分達の世界のなかに他の宗教が入り込むことを絶対に許さない宗教です。

宗教が社会経済機構を反映していることは、歴史的な事実です。もし、社会経済機構が変化すれば、それにともない宗教の構成も変化します。たとえ、キリスト教との接触がなかったとしても、バイキングの社会では何らかの変化が生じたことでしょう。

また、変わりゆく社会のなかで、ふたつ以上の宗教が争ったならば、よりその社会のシステムを反映している宗教が勝利を治めることも歴史的な事実として明らかです。

何世紀にもわたる抵抗があったものの、古い宗教が最終的な勝利を治めることは不可能でした。圧倒的な政治力を得た新しい宗教の信者

達は、古い宗教を守勢にまわらせ、およそ15万人の人々を拷問にかけ殺害したのです。

彼らは、ルーンの体系もそれが古い宗教の一部に組み入れられていたことから非難しました。しかし、彼らのうちの何人かは、ルーンの体系のもつ素晴らしいパワーとポテンシャルを良く心得ており、自分達の政治的、宗教的目的の実現のためにルーンを利用することを考えたのです。そして、ルーンを用いている人々を迫害する一方で、自らは、ルーンの体系を保持することに努めたのです。

事実、ノルウェーのオラフ国王が、自国のルーン・マスターを殺害し、ルーン・ストーンの破壊に尽力し、その英知の破壊の功績としてキリスト教より聖者とされていた頃、キリスト教の牧師のなかには、自分自身と教会のためにルーンの知識を獲得するために努力していた人々がいたのです。

このようなルーンを使用する価値のない野蛮な人々による誤用を防ぐためにも、ルーン・マスター達は、真のルーンの象徴を変形させたり、新しい象徴を加えることを決意したのです。その結果、唯一、秘儀参入（イニシエーション）を果たしたもののみが、ルーンの象徴を理解し、正しく用いることが可能になったのです。適切な知識と背景をもたずに、新しい象徴のルーンを用いる人々は、あまり効果的ではないというだけでなく、かなりの危険を犯す可能性もあるのです。

そのことについては、「エギルのサーガ」で次のように指摘されています。

「ルーンを十分良く識らぬのであれば、

人はルーンを数えることなかれ。」

英語圏では、真のルーンの伝統が欠落しているのです、この国の形而上の事柄を扱っている最も現代的な人々でさえも、真のルーンの象徴体系と18ファソルク・ルーンについては混乱をきたしています。

多くのルーンの学徒が、現在発行されている出版物のなかに記されている貧弱なヒントを頼りにルーンを魔術的に実践しようと試み無用の困難のなかに自らを直面させている現状は、単に残念な状況であるという以上の問題があるように思います。

無知であるということは、ルーンの不適切な使用が許される理由にはなりません。誰かが高圧線に不用意に触れたならば、彼が、それを高圧線とは知らなかったとか、電気は信じていない等ということが問題にはならないのと同様です。自然法則は、人間を差別しないのです。それと同様に、ルーン・ワーキングの効果も実践者の信念体系とは関係ないのです。

ルーンにまつわる混乱の起源を考察することで、真面目なルーンの学徒は、ルーンの象徴体系の意味と複雑さを理解することが容易になったことと思います。

近年、ルーンに対しての興味が非常に高まってきたのは、前述したとおりですが、何年にもわたる効果の低い「お遊び」の時期を経て、形而上の事柄に興味をもつ多くの人々が、実際の体験を求めています。そして、論理的ではあるが実りのない形而上の分析や、信条やドグマを延々と語り続けるのに耳を傾けるよりも、日々の生活を超越したりアリティに触れたいと強く願うようになってきています。

いま、多くの次元における精妙でサイバネティックな創造により、私達の世界を支配する法則が構成、また、再構成されている領域を多くの人々が確かめようとしています。そこは、ルーンの手により体験できる世界なのです。

# WHAT ARE RUNES?

ルーンとは何か？ということをおある観点から考えてみると、ルーンは、宇宙エネルギーを捉える古代の秘教伝統であるとみなすことができます。また、別の観点から考えてみれば、ルーンは、ルーンを使用しなければアクセス不可能な超越的なエネルギーにアクセスするための一連のスイッチ、または、トリガー（引き金）であると考えられることもできます。

個々のルーンは、3つの側面をもっています。

1. 神聖文字、シンボル（文字）
2. 数（18ファソルク・ルーンのなかでの位置を示す）
3. アイデア（プラトンが用いた意味での）

したがって、ルーンを組合せることは、アイデアを組合せ、世界に対してクリエイティブな影響を与えることを意味します

しかし、上記のような描写のどれひとつとして、また、他にどれだけ多くの描写をしたとしても、ルーンのある特定の一面しか示すことはできません。

なぜならば、私達の行なう定義は、言語によっているためです。言語は、様々な物質的レベルにおいて創造された後のことを示しています。その言語による定義は、形態の世界で私達が、知覚しているものを述べているにすぎないのです。それに対して、ルーンは、論理や言語的記述では到達できない、形態の世界よりはるかに深いレベル、創造のレベルに属しているのです。そのため、言語によっては、ルーン



が何であるかを、完全に、また、正確に示すことはできないのです。ルーンの領域、ルーンの世界を探求することを望んでいる人々にとって言語が役にたつのは、ルーンと関連しているトリガーを与えてくれることのみです。

創造の領域を探求し、それを活用するための方法のひとつに、象徴体系の応用があげられます。ルーンの個々のシンボルは、象徴的な意味と喚起的な意味をもっています。

象徴的な意味は、ルーンのシンボル（文字）の形に見出すことができ、創造の領域の特定の部分についての基本的なアイデアを与えてくれます。そして、ルーンのシンボルの喚起的な機能によって、ルーンの特定の領域についての直接体験へと導くのです。

ルーンの象徴体系に加え、創造のエネルギーにアクセスするために他にも様々なトリガーが存在しています。そのようなもののひとつが、「オーディンの歌」と「マジカル・ポエム」です。それは、象徴的な言葉で、特定のルーンが物質界にどのような影響を及ぼすのかについていくらか述べてあります。

ルーンにアクセスするためのより複雑なシステムについては、「18のルーンの歌」のなかで語られます。これらの歌のひとつひとつが、18神聖ファソルク・ルーンのそれぞれと関連しています。そして、これらの歌は、何世紀にもわたって、ルーン・マスターからその学徒へと「口頭伝授」の形式で、伝承されてきたものなのです。これらの「ルーンの歌」は、重要な秘儀伝授の内容を含んでいるのです。いいかえれば、これらの歌を得ることで、ルーンの学徒は、比較的短い期間で、効果的にルーンのプラクティスを行なう技術を向上させることができるのです。

いうまでもないことですが、宇宙エネルギーを捉えるために非常に有益なこのツールは、ルーン・マスターとなるための小径を歩む者のみが入手できるものなのです。誤用を防ぐためにこの「ルーン之歌」については、一般公開として出版されることはありません。

私達は、いつも、ルーンとは何か？を語るときには、それがルーンのごく一部分を述べているにすぎないことを心にとめておく必要があります。私達が、ルーンに対してどのように多くのことを述べたとしても完全な全体像を描き出すことは不可能なことなのです。たとえルーンによりもたらされる効果についてのみ限定し、正確に、また、膨大な記述を行なうことを試みたとしてもその作業は完結することはいはずです。

また、ルーンを現存するどの秘教的、あるいは、形而上のシステムの枠組みのなかで満足がいくように説明することも不可能です。ルーンは、人間の体験のより深いレベルからくるものなのです。しかし、ルーンは、言語や秘教的体系のなかで定義することはできないけれども、論理や言語的記述を超越したレベルで体験することは可能なのです。

ルーンは、記号論理的なマインド・ゲームのなかで得られるものではありません。このことは、ルーン魔術の学徒と実践者はすぐに理解することができるでしょう。同様にルーンは、今日では、ポピュラーになった「チャネリング」のセッションのもとでしばしば見受けられる、秘教的な空論のゲームになることも避けています。

一旦、ルーンの領域と自分とを結びつける体験のリンクが確立してしまえば、言葉で表現可能な思考形態を体験することができるかもしれません。これらの言葉自体がルーンではありませんが、これらの言

葉は、自分が望むときには、いつでもルーンとアクセスするのを助けてくれるはずです。

この種の言葉は、ルーンのエネルギーを用いて、特定の願望や意図を活性化するためのツール（道具）として役に立ちます。思考が形をとりはじめるレベルでより直接的にルーンを体験するかもしれません。ルーンは、絶えず創造をつづけている永遠なる今に属しているのです。

この小冊子や講座のなかで、紹介されている体系的な構成をもつスタンザや、ルーン・マントラ、ハンド・ポジション、ボディ・ポジション、瞑想などは、すべてルーンのエネルギーを得るためのトリガーであるということは意識しておく必要があります。ルーンそれ自体を記述することは不可能ですが、ルーンを体験することは可能です。

様々な技法を用いることで、ルーンについての理解が深まり、ルーンのエネルギーを捉えるための能力も向上します。そして、非言語的レベル、前論理的レベルにおけるルーンとの相互作用を学習することになるはずです。

「ルーン」（RUNE）という言葉の意味について考察することは学徒にとって価値ある鍵になるかもしれません。古いゲルマンの言葉で「RUNA」というのは、「つぶやく、ささやく」ということを意味していました。また、司教ウルフィラスがラテン語の聖書（ウルガタ）をゴート語に翻訳する際に、「王国の神秘」という語句の「神秘」という語にたいし「RUNA」という言葉をあてはめています。

これらのことを考えあわせると「神秘的なつぶやき」という概念を得ることができます。「つぶやく」ということは、論理的な形態をもっていません。それは、まだ、言葉として表現できない「予感」のよ

うなものであると同時に「神聖なる創造の音、響き」をもっていたと考えることができます。「RUNA」という言葉は、明確に定義することができない響き、すべてのものを貫き創造の深みよりの声、永遠なる今と私達とをつなぐ秘められた音により表現され、活性化された創造な技という概念を私達のなかに呼びおこします。

### Hávamál

Veit ek at ek hekk vindgameiði á  
nætr allar níu

geiri undaðr ok gefinn Óðni,  
sjálfr sjálfum mér

á þeim meiði, er mangi veit  
hvers hann af rótum renn.

Við hleifi mik sældu né við hornigi,  
nýsta ek niðr;

nam ek upp rúnar óþpandi nam  
fell ek aþr þaðan.

# THE SYMBOLISM OF THE RUNES

シンボル（象徴）が、アクティブ・シンボル（物質レベルに影響を及ぼすことができる象徴）となるためには、象徴があるエネルギーによってチャージされる必要があると考えている人々がいます。また、ある人々は、個々の象徴それ自体がある種のエネルギーの放射をおこなっており、チャージは必要ではないと信じています。この後者の意見は、ピラミッド、ペンタグラム、ヘキサグラムや他のタリスマン、象徴的な構成物についてなされた徹底的な研究の結果を指摘することを自らの立場を強めています。これらの実験において、チャージがなされていないシンボルからもエネルギーの放射が認められています。それに対してこの見解に反対する人々は、効果を期待するという行為自体が無意識的ではあってもチャージを行なっていることになるのだと反論しています。

このふたつのグループの意見を要約すると、ひとつのグループは、象徴はエネルギーを有しているという意見を強調し、もうひとつのグループは、どのような象徴であれ、エネルギーを放射する前にチャージがなされなければならないというものです。

また、何世紀にもわたる信仰、信念が、象徴に投射され、集合的なチャージを産み出し、その結果、象徴のエネルギー、効果がうまれたのだという第3の立場もあります。

いうまでもなくこれらのグループの各々が、自分達の考えに対して証拠を提出しており、自分達の世界の分類整理法において、また、知的な枠組みのなかで、その有効性を証明しているのです。

グループのなかでの論議は、あまり実りがあるものではありません。

なぜなら、いくら新しい事実があってもそれは、理論を発達させるかわりに、あらかじめ予想された型のなかに押し込まれてしまうからです。

すべての観点が、いくつかの方法で、正しいと思われるまで、私達は、物事がどのように作用しあっているかについて、いままでの意見をすべて含み、かつ、観察に基づいた他のどのような意見であれ、それを受け入れるのに十分な柔軟さをもちあわせて、新しい視点を発展させなければなりません。

形而上学における理論家のほとんどがその著作を読むと共に変数となり時として相反する観察から一般理論を導き出すことができる量子力学のような科学レベルにはまだ到達していないことは明白です。

このような現状に対して、ルーン・ワークは、どのような原理に基づいているのでしょうか。上記の理論のどれひとつとして、ルーンの実践者には、興味を抱かせるようなものはありません。私達にとって重要なことは、どのようにしたら私達が知覚できるルーン・エネルギーを実践的に「使用」することができるのかということです。つまり、「りんご」の知られている限りの様々な名前について論議をかわすことに精力を費やすよりも、私達は、りんごを食べようということです。論議している人々の論理は、言語レベルの一部であるわけです。しかし、ルーンの真理は、それらのレベルを越えたところに存在しているのです。

私達が事実として観察しているものは、ルーンを実践している時には、特定のエネルギー、特定の波動を引き起こすことができるということです。便宜上、ルーンの象徴体系のなかで見出される「形の波動」

」についてはなしましょう。

私達にとって、ルーンのエネルギーや波動が、長い年月にわたるルーンの使用の結果生じたものであるのか、それとも、特定の形、普遍的な（重力のような）形、統計上の形が、ルーン・エネルギーの自然法則であるのかということはどちらでもよいことなのです。重要なことは、私達は、ルーンのエネルギーを利用することができ、また、自然法則によって公式化されているはずの物質レベルにある程度の関連をもっているということなのです。私達は、これらの法則を私達の世界に希望するインパクトを与えるために、ルーンのエネルギーを適用する効果的な方法を工夫するために使用することができます。その技術が真実であるのか、偽りであるのかということは私達には問題ではないのです。唯一の関心事は、それが有効であるかどうかなのです。

これで私達の立場は、明確になりました。それでは、シンボルについてより深く考察していくことにしましょう。

シンボルは、いくつかの側面をもっています。まず、外形、もしくは、ある種の形をもっています。この形は、視覚的なものに限定される必要はありません。マントラのような聴覚的なものや、ダンスのような運動性のものや、その他、私達の知覚系のどのようなものにアクセスするものでもよいのです。

さらにシンボルが有している面のひとつに、象徴的な側面があります。この性質のために、シンボルを分析することによって、また、シンボルと同調することによって、シンボルのいくつかの意味を引き出すことができるのです。私達がこのようなシンボルのなかに見出すことができる象徴的な意味は、アクティブなものである必要はありません。

ん。どのようなエネルギーも放射している必要はありません。次に、シンボルの喚起的な側面についてかんがえてみましょう。この一面は、シンボルの外形、形のなかにあらわれている必要はありません。喚起的な意味は、文脈がしっかりしている必要はありません。シンボルは、シンボルと関連した特定の喚起的な領域、意味へのアクセスをたすけるトリガーとなります。

シンボルの喚起的な意味の多くは、人造のもので、誤用されてきたいくつものシンボルは、プロテクトがかけられているため、シンボルから、ネガティブな喚起的性質が排除されるまで、簡単に用いることができないものもあります。シンボルのエネルギー的な側面は、象徴的な意味と喚起的な意味から引き出されるのです。

象徴は、象徴体系の一部であるはずですが、既に述べたように、この象徴体系という言葉は、ひとつの象徴が他の象徴にとって重要な意味をもつ秩序ある象徴の配列という意味で使用しています。象徴体系のなかでの象徴の位置は、特定のエネルギーの鍵になります。また、象徴体系は、個々の象徴の単純総和以上であるということも真実です。

既に述べたように、現在多くの書籍で述べられている「ルーン」のアルファベットは、個々の象徴の総和が全体以上のものにならない、ばらばらの配置になっています。18神聖ファソルク・ルーンの実践により、実践的に、また、体験として象徴体系の世界は、その構成している象徴以上に拡大しているのです。他の勝手気ままな象徴の配置は、ほとんど個々のパートの総和以上の次元にはなりません。

アルファベットのような「直線型」と呼ばれる象徴体系においては、個々の象徴に番号（ナンバー）がつけられます。シンボルに付された



たナンバーは、象徴体系のなかでの位置を決定しています。数霊学的方法で象徴を記述しているのでもなければ、数それ自体の意味を象徴に加えているわけでもありません。

ルーン象徴体系が「直線型」以上のものであることは、自分自身での研究のなかで見いだすことができるでしょう。当面は、ルーン象徴体系は、地球の周囲の空間に適用できるもので、3本の対角線をひいた六角形をベースにしていることのみ述べておきましょう。

一般に象徴体系は、象徴が関連している世界の地図化（分類整理法）の一形態をあらわしています。例えば、化学の象徴体系は、元素の周期系を基礎としています。それは、化学の領域においては、価値ある分類整理法です。このシステムとそこから引き出された公式を用いることにより、このシステムが適用できる多くの現象の適切な記述を行なうことができます。一般的には、化学式をもちいて表現することができない物質はありません。しかし、このことは、化学の体系が、「万物公式」、つまり、世界でおこっているすべてのことをあますところなく説明、分類整理できるということを意味しているわけではありません。

化学の分類整理法（地図化）の適用に適していない事柄を扱うためには、物理学のような他の体系が必要です。つまり「存在するすべての事柄を徹底的に、また、明確に、かつ完全に記述できる象徴体系は、存在していない。」ということです。さらに「個々の象徴体系は、枠組みを示しており、その枠組みのなかの事柄を扱う限りにおいては価値があり妥当である」ということができます。

私達の共通の体験から、これらの文章は、不必要なものであったとしても、明らかであるように思います。しかし、多くのオカルティストや占星術師は、この単純な原理に気づいていないように思います。

彼らは、まるで自分達のシステムがすべてを記述しているかのように自分達のシステムから論理的に「真実」をひきだします。

正しく象徴体系を扱うことができるようにするためには、科学的な訓練が必要です、そして、象徴体系の限界を常に心にとめておくことが必要です。不幸にも、形而上学の分野では、このような訓練を受けている人々はあまり多くありません。

化学の象徴体系の使用は、化学により定義された物質の相互作用の記述に限定されています。また、科学の実際的な応用を発達させるためにも使用されるはずですが、しかし、化学の象徴体系は、宇宙におけるすべての事柄に適用できるわけではありません。

同様に、すべてのことをあますところなく適用できる形而上学的、超物理的な象徴体系はありません。ルーンも例外ではありません。

ルーン用語で、つまり、ルーンの象徴体系で多くの現象を記述することができます。特に、物質次元を越えた次元でおこっている事象を説明することには非常優れています。あなたがルーンを研究するにつれ、物質次元、また、物質次元を超越した次元において適用できる特定の方略を発達させるうえでルーンの体系から有効な知識を得ることができるでしょう。

この分野における実践者の多くは、象徴操作を可能にする十分な科学的な訓練が欠けているため、多くの形而上学のサークルでは「万物公式症候群」が蔓延していることを研究をしている間は、心にとめておく必要があります。このような形而上学の研究家の著述、たとえ、それがルーンについて書かれたものであっても著述の背後にある仮定や憶測に特に注意を払う必要があります。

# PROPERTIES OF ESOTERIC SYMBOLISMS

物質次元における現象を記述する象徴体系は、一般に、問題となる分野の重要な性質を反映している論理的な分類整理法から引き出された数式により表現されます。

形而上の、また、超物理学的な分野の象徴体系は、純粹に物質的なレベルの存在のための象徴体系ほど単純ではありません。物質レベルを超越したレベルでおこっている現象を考慮しなければならないのです。

何世紀にもわたる体験により多くの形而上学的な分類整理法を示されてきました。私達が使用しようとしているものは、物質次元を超越した次元、つまり、アストラル界、メンタル界、流出界です。

これらの次元をすべて網羅する象徴体系は、物質次元の象徴体系よりもずっと複雑になるはずですが、純粹にメンタルな記述では、もはや新しい次元に十分ではありません。一般的な人々や物質主義的な科学者の眠っているような思考をこえた「思考」や「直感」が必要なのです。

しかし、高次の次元への境界に位置している人は、不安にかられる必要はありません。秘教的な象徴体系は、学徒を象徴体系をマスターするために必要なある種の思考へと導くという特長をもっているからです。いいかえれば、これは「段階的伝授機能」をもっているといえます。ルーンも例外ではありません。事実、ルーンの象徴体系は、学徒をルーンの象徴体系の深奥へと導く特に強い力をもっているといえ

ます。

学徒が実践をとおして進歩するにつれ、思考、直感、靈感、超越した存在からくるものの質は、しだいに高まり、また、深いものへとなっています。

このような性質が、物質的な象徴体系との主要な違いです。秘教的な象徴体系の「実践」によって、これがそのとおりであることを見出すかどうかは学徒しだいです。それについて知識を得るだけでは十分ではありません。このような物質次元のロジックでは、物質レベルの束縛からあなたを自由にしてくれることは決してないでしょう。

私達にとって重要なのは、物質世界の論理にてらして、メソッドやプラクティスが「真」か「偽」かを論じることではなくて、「実践」によってのみ到達することができる、高次の世界の観点から、それが有効であるか否かということなのです。

要約すると、イニシエーション（段階的秘儀伝授）の機能は、秘教的な象徴体系のなかにもともとある性質です。これらの象徴体系の実践により、その体系を最も効果的に用いるために必要な心的、霊的能力を発達させることができるのです。

## THE PATH OF INITIATION

18神聖ファソオルク・ルーンは、秘教的な象徴体系を構成しています。そしてその、イニシエーションの小径は、「オーディンのルーンの歌」と「マジカル・ポエム」のなかに美しく示されています。

「オーディンのルーンの歌」では、どのようにルーンを体験するかについて、また、「マジカル・ポエム」においては、ひとつの歌がひ

とつのルーンに対応し、18のトリガー（引き金）の体系を示しています。「オーディンのルーン之歌」を深く体験することで、ルーンの領域にアクセスするための価値ある鍵を手にすることができるでしょう。

ルーン之歌と18神聖ファソルク・ルーンを体験することで、あなたは、「象徴体系」でワークを進めるべきか、象徴体系としての統合的な力をもたない矛盾した配置の「ルーンとよばれるもの」で作業をすすめるべきかについて疑問を抱くことはないでしょう。確かに古代の神々の神話は、興味深いものです。しかし、象徴体系のなかであなたが個人的に用いることができる、神のような力ほど興味深いものではありません。

ルーンの象徴体系は、多次的、多層的な知識です。最初にあなたは、個々のルーンを知り、そして、個々のルーンの世界を体験するようになるでしょう。

最初のイニシエーションで、すべてのものがそれぞれの位置につき、ルーンの象徴体系それ自体が、あなたにコミュニケーションしてくるでしょう。その時から、あなたと象徴体系の領域とは繋がりができているわけですから、あなたが行なうルーンのパラクティスは、ルーンの体系の力によりバックアップされるはずで、最初のイニシエーションの後、個々のルーンを通過する小径へともどります。そして、ルーンの領域との繋がりを生かし、より高次のイニシエーションへと向かうことになるでしょう。

イニシエーションは、集団で行われる特別のルーンの儀式において極めて効果的に体験されます。できれば、荒らされていない自然環境のなかで行なうのが一番です。

# THE 18 SACRED FUTHORK RUNES AS AN ESOTERIC SYMBOLISM

「オーディンのルーンの歌」、「マジカル・ポエム」、ルーンのグラフィックな構造、そしていうまでもなく、ルーン・マスターの個人的な体験により、18神聖ファソルク・ルーンは、真の秘教的象徴体系であることが証明されています。

それらは、3本の対角線をひいた六角形を共通の基礎として引き出された象徴群です。

そして、直線型象徴体系として、また、アルファベットとして、各々の位置により秩序が定められています。

2次元的な象徴体系として整理することができます。事実、2次元的な様式で様々なアレンジメントが可能です。

物質次元を越えた次元に到達しています。

それらを用いてプラクティスを行なうことで、思考、霊的、直感能力を拡大することができます。

18神聖ファソルク・ルーンの象徴体系は、特定の性質をもつ一連の分類整理体系を構成しています。それは、物質次元だけではなく、次元の根にあたる創造の領域を含む、物質次元を超越した次元において適用することができます。この体系を実践することにより、より精妙な運命の領域の特殊な自然法則があきらかになります。その結果、科学的な思考が発達し、創造の領域を扱うことが可能になるのです。唯一の限界は、魔術師自身の視野です。よりよく数学的な分類整理を行なうことができる魔術師がよりよい魔術師なのです。

オーディンのルーンの歌とマジカル・ポエムは、その喚起と完全理解のためには生涯をかける内容を含んでいます。これは、何世紀もの間、多くの学徒の研究を助けてきました。あなたが、ルーンをどのように深く学習していったとしても、このふたつの文章のなかにさらに多くのものを見出すでしょう。あなたが、この探求を行なうための精神的な準備を行なうのを援助することがこの本の主要な目的です。

## オーディンのルーンの歌

私は知っている、私自身が風吹きすさぶ樹に  
凍てつく九夜の間、吊り下がっていたことを、  
槍に傷つき、ウォーダンへの、  
つまり、私自身への捧げものとして。  
私は吊り下がっていた、人をかくし、  
その根より人をうみだした、世界樹に。  
パンもワインも恵まれず、  
私は下をうかがった。  
私はルーンをみとめ、うめきつつそれらを摺み  
樹からおちた。

そして、私は、向上し賢くなりはじめた、  
成長し申し分なく思われはじめた。  
言葉から言葉が生まれ、  
はたらきから、はたらきがうまれた。

いま、私は、魔女と人の子が誰一人として知らぬ歌を知っている。  
おお人の子よ、それらの歌こそ、  
終わりがなき時の中で学びとること叶わざりしもの、  
それらをとらえたならば、それらをつかめ、  
それらを知り知ったならば、それらをつかえ。  
それらを保つものに祝福あれ！

## マジカルポエム

### FA

私は、魔女と人間の子が 誰一人知らぬ歌を知っている  
その最初の歌は、救いというもので  
苦悩、悲しみ、そして、あらゆる苦しみから  
汝を救うだろう

### UR

私を知る第二の歌、癒しの手をおこなう  
人の子にたいそう役立つもの、  
それは、病とあらゆる痛みをのぞき、  
すべての傷を癒す

### THORN

私を知る第三の歌、もしも危機せまり、  
魔術をもって敵を防がねばならないとき、  
私は敵の剣を鈍くする、



かれらの長剣がもう切れぬように

## OS

私を知る第四の歌、もしも敵が  
私の柔軟な関節を縛り上げたならば、  
私は、呪文をとらえ、  
足枷、手枷は、壊れるだろう

## RIT

これは私が第五の歌として知っている歌、  
もしも敵陣において、矢が軍勢に向かい放たれたならば、  
それがいかに勢いよくとも、私はいちべつでもって  
しっかりと捕らえ、その力を妨げる

## KA

六番目の歌は、わたしのもの。もしも兵士が  
やわらかな木の根で私を傷つけるならば  
この兵士は、私の中の憎しみを目覚めさせ、  
私を傷つける前に不幸にみまわれるだろう

## HAGAL

私を知る第七の歌、もしも、館がそこにいるすべての人々をこえて、  
高く燃え上がったならば、  
館がいかに燃えようとも、すべての人を私は救う  
私はそれをなしえる魔術を知っている

## NOD

八番目の歌は、わたしのもの。これを聞くは、  
危険と困難の中にあるすべての人にとり有益なもの。  
もしも人の間に憎しみが生じたならば  
私はすみやかにそれを鎮める

## IS

私が知る第九の歌、もしも海で危機が生ずれば  
私の愛船を守るために  
荒海を吹く風に魔法をかけ  
海をおだやかにする

## AR

私が知る第十番目の歌、よからぬことをたくらむ魔女たちが  
空中たかく飛行する時、私は彼女らをおおうものからひきはなし  
家へもどらせることができる、もとのところへもどらせ、  
とほうにくれさせることができる

## SIG

これは私が第十一番目として知っている歌、  
私が友人や愛する者を戦いにつれていくとき、  
私は彼の盾に向かい歌う、さすれば戦いに勝利し、  
どこでも運がついてまわる

## TYR

私が知る第十二番目の歌、もし私が

木の上につるされ、風にゆれている人を見れば、  
私はルーンを彫り色をつける、  
そうすればその兵士は木から降り話しをすることができる

### BAR

私が示す第十三番目の歌、もしも私が聖水を  
幼い男子にふりかけ浄めれば  
敵にあっても屈することなく  
刃も彼を刺し殺すことはない

### LAF

第十四番目の歌、これは集える人にむかい、  
私が神々の名をあげるときに歌うもの。  
なぜなら、私同様誰一人、  
すべてのアールブたちとアースたちの性格を知る者はいないから

### MAN

私が十五番目と数える歌、ノームのボルクラストが  
昼の門のかたわらで歌ったもの、  
アースたちには強さを、アールブたちには力を、  
そして、私には感覚の鋭敏さを

### YR

私が知る第十六番目の歌、もしも、私が賢い娘から  
愛のよろこびを得たいと熱望すれば、  
私は、彼女の意思を変え、

彼女の感情をがらりと転じせしめる

EH

私を知る第十七番目の歌、偉大な法則を通し愛にいたり  
双方がのぞみ、  
生活をともにすれば、  
それ以後、誰一人簡単に引き裂くことはない

GIBOR

私が学んだ第十八番目の歌、私はこれを他の誰にも知らせぬだろう、  
ひとりで知っているのがいちばんよい、  
これで歌は終わる  
私の唯一の愛する者として腕のなかにいる者のみがこれを知る

これらのルーンの歌を深く理解するためには、ルーンのプラクティスで生じる喚起的な意味と象徴的な意味を体得する必要があります。いうまでもなく、プラクティスを繰り返せば繰り返すほど、象徴体系の深い意味が明らかになります。

オーディンのルーンの歌とマジカル・ポエムの18のスタンザは、その段階的秘儀伝授の内容を明快に示しています。個人的な体験を通して18神聖ファソルク・ルーンについて必要とする直接的な証拠を得ることができます。ルーンの文字の形は、6つの正三角形から成り立つ、3本の対角線をひいた六角形からひきだされています。ルーンの数18であるということは、このことから明白です。

ルーンを詠唱することは、「力の言葉」を唱えることです。あなたが一旦ルーンを意識的に詠唱すれば、あなたが、起こることを望む望

まないにかかわらず、超越的なエネルギーにアクセスすることができます。もし、あなたが、霊的にルーンを受け入れる準備が調い、世界樹の拘束、自分で作りだした制限を克服する準備ができていれば、ルーンは、ゆっくりとあなたがエネルギーを取り扱える範囲でコミュニケーションしてきます。

ここで、トリガーとして働き、コミュニケーションしてくる存在としてのルーンについて話しました。しかし、このようなルーンの種類整理の方法は、ルーンの一面を示しているにすぎません。もちろん、私達がどのようにルーンに対して記述を行なおうとも、そのような記述がルーンとは何であるかのすべてを言い尽すことはできません。

ルーンは、あらゆる「地図化」（分類整理法）を超越しているのです。ルーンをエネルギーとして、また、エネルギーを引き起こすトリガーとして、霊的存在として、神として、マントラとして、また、これらのすべてであるとして考えたとしても不適切な、不完全なものです。ルーンは、あらゆる記述を超越したものをもっているからです。また、ルーンによる体験も、記述を越えた、言葉を越えた、非言語的な世界を含んでいるのです。

個々のルーンは、創造と形成の世界とつながっています。それ故、あなたが、用いたルーンに対応した物質的な効果を期待することができます。もっともパワフルな技法は、しばしば非常に単純なものであることを認識しておく必要があります。それらは、しばしばその単純さのために人々の理解の範囲を越えています。このような人々は、すぐにマスターできることを習得するために長い時間をかけたがるし、また、かけてしまうのです。最も深い神秘は、しばしば非常に単純なことで理解できるものです。しかし、誤用と冒瀆に対する自己防衛機能をもっていることは、心にとめておく必要があります。

# HEALING WITH RUNES

矛盾の多い配置の象徴群に対して、体系を構成している象徴群の大きな利点のひとつは、その象徴体系を世界の特定の部分に適応させることができるということです。

ここでは、私達は、ルーンと様々な身体の部位、機能との照応について学習してみましょう。このような照応を利用して、ルーンの体系を用いて、身体のヒーリング（治療）、身体のエネルギーバランスの調整を行なうことができます。

実際にルーンを用いてプラクティスを行なうことによつてのみ、ルーン・エネルギーによるヒーリングのメカニズムについて明確に理解することができます。しかし、次に述べることから、ルーンによるヒーリングがどのようなものであるのかについて多少なりとも概念を得ることができるはずで、ルーンのエクササイズをいくらか行なっていれば、容易に理解することができるでしょう。

ルーンは、創造の領域のエネルギーの象徴的な記述を行なっています。この象徴体系は、創造のレベルからのエネルギーのスペクトルを与えてくれます。自然の色彩のスペクトルといくらか類似しているもののルーンと色とは異なったものです。

あなたが、ルーン魔術やルーン・ヒーリングを行なう際には、創造の領域からのエネルギーを用いていることとなります。ルーンにより、あなたは、世界に創造的に働きかけることができます。ルーンのスペクトルの性質を知ることは、あなたが創造に参加するための条件です。ルーンでヒーリングを行なう時、あなたは、エネルギーを癒すべき人に向かって放射します。このエネルギーにあなたは、創造の領域から

からのルーンの波動をのせるのです。

「光」または「白光」の放射とは異なり、ルーンにより、ルーンのスpekトルの特定の「色」をつけることができるのです。どのような特定のケースであっても、ある色は、有益な効果をもたらし、また、ある色は、有益な効果を妨げます。

spekトルを考慮することなく一種類の光のみ用いる人は、どの薬が有効であるのかわからずに、薬局ですべての薬を処方するような人に例えることができます。それらの薬のひとつが、他の薬の薬効に拮抗する作用をもたらすのは当然のことです。

ルーンの放射は、劇的な効果をもたらすかもしれませんが、ただし、私達は、ルーン・ヒーリングや他の霊治療、神霊治療を好んで、他の治療をすべて放棄してしまわないようにしなければなりません。

錬金術に熟練したルーン・マスターのみが、与えられた状況に対して特定のルーンを選定することができます。このようなルーン・マスターにとって、ルーンは、肥満等の望ましくない身体状況や特定の病状の根本原因を見出す助けにもなるのです。

ルーンは、私達が自分自身で作りに上げた時空の制約によって制約されないという事実により、熟練したルーン魔術師は、私達の時空連続体を超越した治療のメカニズムを確立し、その影響を未来にまで拡大することができるのです。ルーンは、病気の予防同様、広範囲の時間におわたる全体的な状態の向上に役立ちます。

ルーン・エネルギーの放射は、様々な方法で行なわれます。最も多用されている方法は、手を使うものです。他の方法では、水、食物、治療される人の周囲の空気さえもチャージする方法があります。ルーンの放射と同時に特殊な食養を行なうことでより効果を高めることができます。治療に加え、ルーン・ヨーガを行なうことはとても重要で

す。これは、創造の領域からのエネルギー波動と同調している特定の形の波動を確立することで効果的なルーンのエネルギーを捉えるための訓練です。

ルーンのヒーリングを行なう際に、特定のサイクル、また、ルーンのエネルギー傾向を観察しそれにあわせることも重要です。何千年の間、占星術師達が秘教占星学を探求してきました。しかし、彼らの研究は、物質主義的な占星学の象徴体系に基づいて調査をおこなってきました。このため、実際に彼らは、深い洞察を得ましたが、それ以上のものではなかったのです。伝統的な占星術師は、既に存在している傾向にあわせることにより「星々を支配」しよう、運命を支配しようとしました。占星学に対してルーンの象徴体系を使用している人は、「運命傾向をつくりだす」ための適切な道具を見出すことができます。このことで、運命に対してずっと効果的なインパクトを与えることができます。私達の目的に対して、また、病気を克服するため、肉体、マインド、魂の全般的な向上のためにより徹底的なアプローチを行なうことができます。また、この種のアプローチにおいて価値ある霊的な利益もあります。



# TRADITIONAL CORRELATIONS BETWEEN RUNES AND HERMETIC MEDICINE

FA—頭部の病気、発熱性の病気、脂肪分の燃焼、皮膚と骨に関連した病気、浄化

UR—全般的なヒーリング、病気の根本原因の発見、首、肝臓、神経系（ISとの組み合わせによる）、胸部、及び、肺の疾患（この場合、学徒は、ルーン・マスターの個人的な指示のもと、OSのバリエーションであるOTHILとともに使用する）

THORN—健康オーラの強化

OS（そのバリエーション、OTHILも同様）—胸部、背部、首（URとの組み合わせにより使用）

RIT—咽のチャクラ（ビッシュダ・チャクラ）

KA—消化器系（ISとの組み合わせで使用）、発熱性疾患

HAGAL—腎臓、ぼうこう、腰部

NOD—伝染性疾患、皮膚の病気（LAFと組合せて）

IS—首、肝臓、神経系（URと組合せて）、消化器系（KAと組合せて）、外傷（MANと組合せて）、血液、痛風、関節炎、動脈硬化

AR—生命力の強化、幻覚、憑依に対抗

SIG—神経、けん（MANとの組み合わせ）

TYR—血液、痛風、関節炎、動脈硬化（ISとの組み合わせ）

BAR—女性器、出産

LAF-伝染性疾患、皮膚の病気 (NODと組合せて)

MAN-外傷 (ISと組み合わせて)、神経、けん (SIGと組合せて)

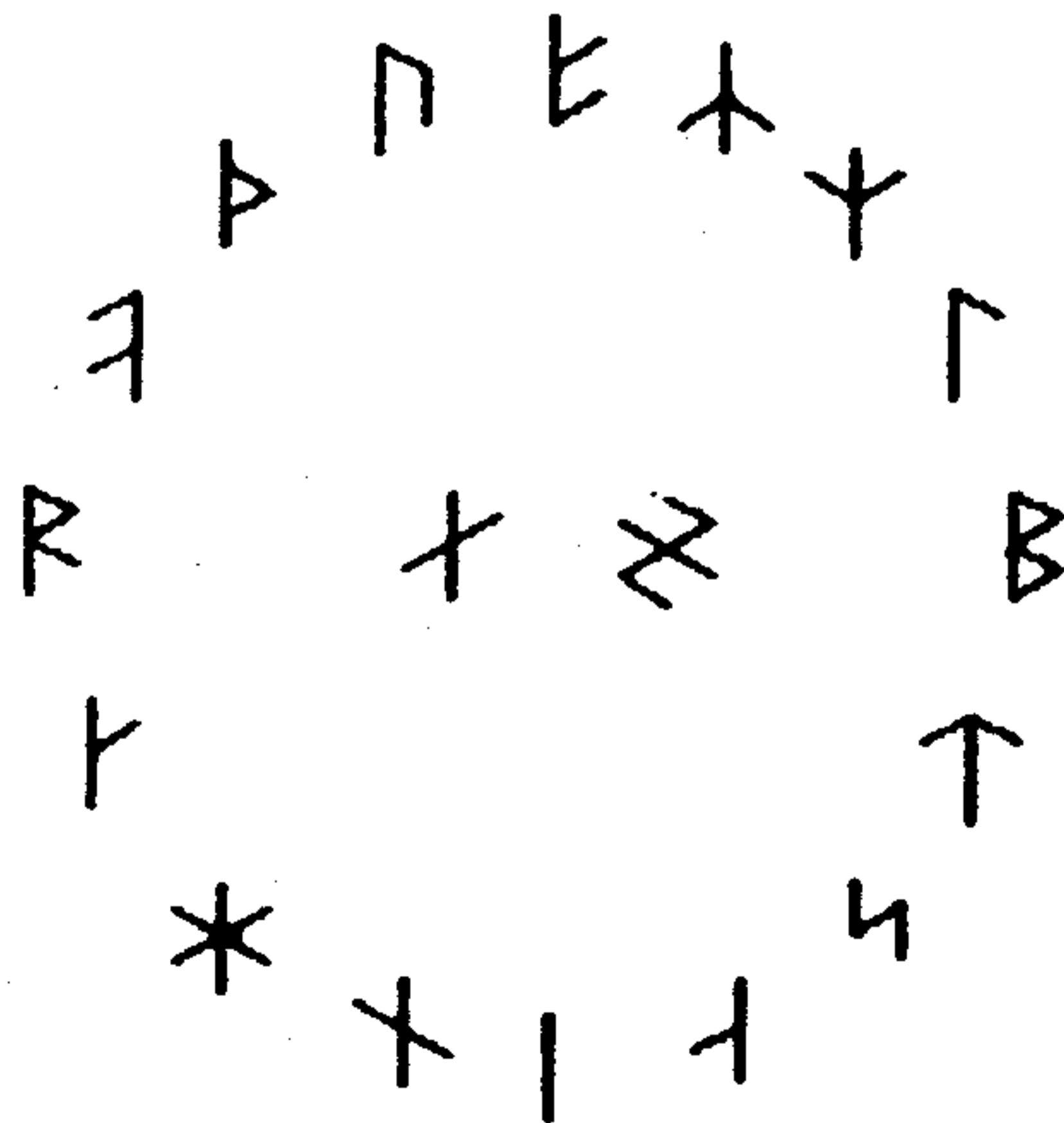
YR-下腹部、生殖器

EH-バランス、腺、リンパ系、うつ状態に対抗

GIBOR-回春、変質

上記の照応は、ルーン魔術師が操作するレベルに応じて様々な方法により理解されるでしょう。

ルーンの治療効果を別にしても、ルーン、特に、ルーン・ヨーガの形の波動は、肉体の霊的中枢 (チャクラ) に強い影響を与えます。特定のルーンをこれらの中枢の放射することで、中枢を浄化し覚醒させることができます。どのチャクラでどのルーンが有効であるかの知識は、その誤用による危険性が甚大であるため、このような一般的出版物で、あきらかにすることはできません。ルーン・マスターの学徒は、通常、ルーンISと関連してこの事柄を学習します。



# INVOCATIVE AND EVOCATIVE PROCESSES

生理学へのちょっとした小旅行の後で、私達は、また、異なったテーマを扱ってみましょう。もし、あなたが、いままでのテーマについてくることのできないように感じたとしても、心配する必要はありません。ルーン魔術を実践しルーンについての理解が深まるにつれ自然にすべての事柄を体得することになるでしょう。数学のある分野をものにする時のように、習うより慣れよというわけです。

以前に述べたように、ルーンは、絶え間ない創造が行われ、言語にすることはできないが、客観的ではあるレベルから作用しています。ルーンの効力は、私達自身のなかで感じられるし、また、私達の外部にも放射されます。言い換えれば、ルーンは、召喚的な性質と同様に喚起的な性質をもっているということが出来ます。

召喚のプロセスは、形而上学の知識をいくらかもっているほとんどの人々に知られています。召喚を行なう時、自分自身のなかに「顕現の場」を確立し、特定のエネルギー、もしくは、存在に対して自己を開放し、その一部を自分自身のなかにひきいれます。あなた自身のなかにどのくらい多くの部分をひきいれるかは、あなたがどのくらいのスペースをつくりだすことができるかによります。

召喚の過程が統制されていなければ、憑依されてしまうことになります。これは、実践者が適切に準備と防御がなされていない場合しば

しばおこることです。

防御なしで「チャネリング」を行なう場合には、しばしば好ましくない実体（存在）を引き寄せてしまいます。このような状態は、チャネリングの結果として話されたことをすべて信じてしまうような形而上的な事柄にのめりこんでいる多くの人々の訓練されていない方法では防ぐことはできません。死んだ後、馬鹿であった人々が急に賢くなるはずもないし、悪意ある人が寛容になるはずもないのです。日常の出来事以上に、形而上の事柄に関しては、より以上に論理的な思考が必要になります。ルーンもこのような存在であるので、召喚を介して伝えられるインパクトは、欲望や願望によって簡単に修正されたり、限定されたりされます。

一般に信じられていることに反して、喚起のプロセスは、あまり害がありません。召喚的になった喚起的エネルギーは、防御の仕方をしない実践者をおびやかします。

喚起に際しては、喚起されたエネルギー、または、存在は、実践者の外に顕現します。このような状況は、強大なエネルギーを引き起こすことを可能にします。もし、このようなエネルギーが、召喚されたならば、すなわち「防御円」の内部への侵入を許したのであれば、実践者は、「過充電」されてしまうはずで、高次のエネルギーは、人格化の次元をもっているため、このような状況は、潜在的に危険であり、憑依の可能性をもっています。極端な状況においては、防御されていない実践者の肉体的な死すらおこりえます。

喚起におけるこのような問題をさけるために、実践者は、特定の決定論と魔術的宇宙の構成についての知識をもっていなければなりません。

ん。ルーンの、または、他の象徴体系の喚起的な意味に応じるためには、喚起と召喚のプロセスに慣れ親しんでおく必要があります。

このようなプロセスの危険についての警告は、パワフルな自動車を運転する危険に対しての警告と同様に理解されなければなりません。運転には危険な要素が含まれているからといって、運転とそれに伴う利益、効率をあきらめてしまう人はいません。そのかわり、賢明な人々は、運転の仕方を学び、運転に際しては注意深くなります。

喚起のプロセスによって呼び寄せられたエネルギー、もしくは、存在は、実践者の肉体の過充電の問題がないため、ほとんど無限ともいえるほどにエネルギーを強めることができます。この場合の魔術師の限界は、自分の視覚化の力とイマジネーションの力の限界になります。優れた数学者は、誰であれ、強力な魔術師になるはずで、数学と私達がいうとき、それは、学問的な意味での数学ではなく、より高度な種類の、存在のレベルをより高度なものへと広げる数学を意味しています。しかし、重要なパターンを認識することは、普通の数学同様に基本的なことである。

どのような場合のルーンの使用においても、喚起と召喚のふたつのプロセスを含んでいます。ある程度までは、かならず両方の過程を含んで作用します。その状況は、商業的な売買の活動に似ています。それらを個々に分けて研究することが可能であったとしても、それらはいつもひとつです。

ルーン魔術師の強さとは、あらゆるレベル、肉体、アストラル、などにおける「体（ボディ）」の活動機能能力とルーンを体験のなかの喚起的次元を強力にする能力であるといえます。これは、自動的にそ

れに含まれる召喚能力を強化し、その結果、1万年かかって近づくゴールに2～3回の転生でたどりつくことができるように魔術師の進化を早めることになるのです。

あなたが、ルーンの実践をはじめるとき、召喚的な方法でそれを行なうことになるでしょう。あなたは、ルーン領域へと入り、あなた自身のなかへ、内部ルーン領域へとルーンのエネルギーを導きます。そして、外部ルーン領域を確立することで、喚起のレベルに入ります。しかし、ヒーリングのためにルーンを放射する方法や特定の環境にルーンを引き寄せる方法を学んだ時でさえも、プラクティスの始まりは、主として召喚的なものになります。

一旦、あなたが、ルーンを象徴体系として、体験してしまえば、ルーンにより喚起的なレベルに入る準備ができたことになります。事実、それからの作業の多くは、喚起的な次元を強調したものとなるはずで

す。

創造の領域から、ルーンを引き寄せ、外部ルーン領域を通して、自分の世界へと放射する。喚起の次元が、強力になればなるほど、魔術儀式は、よりすばらしい成功を治めることになります。

ルーン魔術は、その強力な形態において、超物理学であるます。それは、肉体的な目でみることができない次元からの操作で、物質世界、現実世界に影響を及ぼす技法なのです。それ故、ルーンにより、「マインド・パワー」や「マインド・コントロール」や同様のテクニックによって扱うことができない事柄を扱うことが可能です。

ルーンにより、環境に対して影響を与え、あなたの内面世界に変化を引き起こすことができるのです。これらの活動は、思考が形をとり

はじめる、深い創造のレベルでの活動なので、形而上学における他の方法よりも強力に、また、スピーディに作用します。

ルーン魔術は、一般的な時空を超越した、超空間からの操作です。それは、創造された形態と宇宙のよく定義されたエネルギーを超越しています。そのため、ルーン魔術の応用範囲は無限です。ルーン魔術においてあなたがどれほど進歩したとしても、また、そのためにどれほど多くの用法を知ったとしても、つねに新しい応用と発見があるはずです。

同時に、世界の働きに対しての理解が絶えず深くなっていくのを体験するでしょう。イマジネーションの力の限界は、魔術師の力の限定要因です。ルーンの実践により、イマジネーションの力は、自動的に増強されます。たとえ短い期間のルーンの実践であっても次のようなことが、体験できるでしょう。

全般的な自己の向上

自己のマジカル・パワーに対する気づき。

マジカル・パワーの強化

治療能力

宇宙の動きについての深い洞察

スピリチュアルな洞察と体験

サイキックな能力

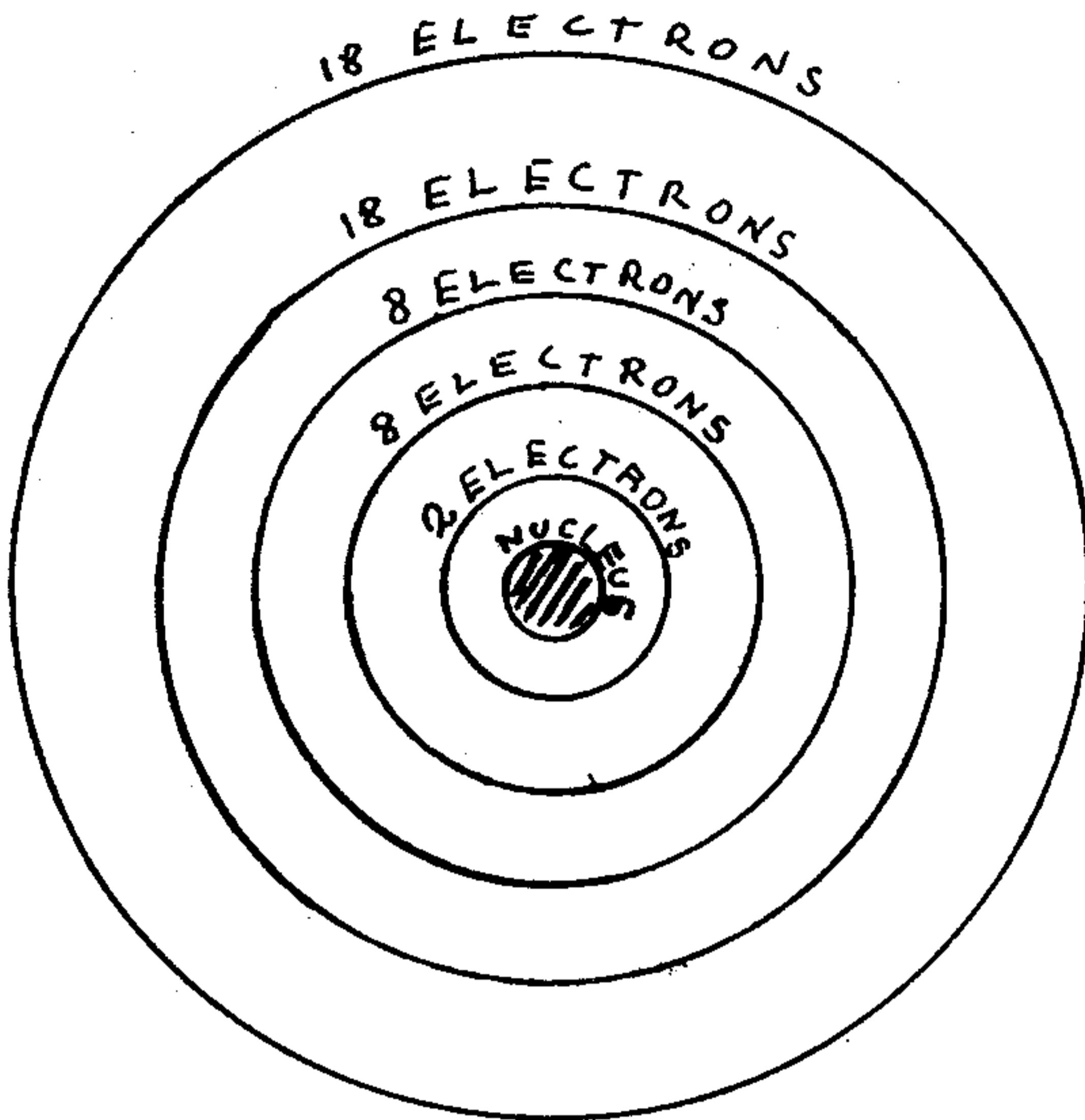
チャクラの覚醒

情動的な均衡

環境のなかでの調和

運命に影響を与える能力 等

## ルーンと元素の周期系



世界水晶、18神聖ファソルク・ルーンと元素の周期系との間の照応からルーン錬金術の興味深い可能性が明らかになっています。上図のように、最初の周期には、2つの電子が、第2周期には、8つの電子、第3の周期にも8つの電子がはいります。そのため、最初の3つの周期の電子の数の合計は、18になります。

そして第4、第5の周期は、それぞれ18個の電子がはいります。

このことを神聖ファソルクの数が18であり、16+2に下位分割することと考えあわせると興味深いものがあります。